



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

Vol.3
2012 春号
(改訂版)

RIWAC News Letter

Research Institute for Women and Careers

特集

「女性とキャリアに関する調査」速報

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）

活動報告

- ・公開講演会
- ・ワークショップ
- ・紀要

公開講演会



田端八重子氏



講演会の様子

現代女性キャリア研究所 主催

2011年12月10日(土)、新泉山館(目白キャンパス)にて公開講演会「災害復興と女性の自立」を開催しました。被災前から女性の起業支援などの活動を行っている「参画プランニング・いわて」副理事長・もりおか女性センター長の田端八重子氏より被災地支援と被災女性の自立支援の両面を備えた「芽でるカー」プロジェクトなどについて報告がありました。ついで、東京大学社会科学研究所特任研究員の皆川満寿美氏から「防災や復興になぜ女性の視点が欠かせないのか」という問題提起がなされ、最後に立教大学大学院の庄司洋子氏に、復興とは新しい社会を創る機会、そのために女性が積極的にかかわる必要があるとのコメントをいただきました。フロアからも活発な質問や意見が出され、アンケートに「芽でるカー」の実践には「希望」があると思った、などの感想が寄せられました。

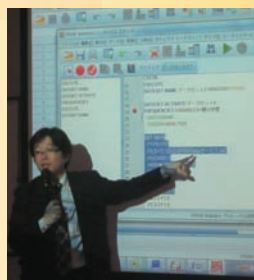
現代女性キャリア研究所・人間社会学部 共催

2012年1月11日(水)、西生田キャンパスにて堂本暁子氏による講演会「ジェンダー視点からみる災害・復興」を開催しました。

ワークショップ



セミナーの様子



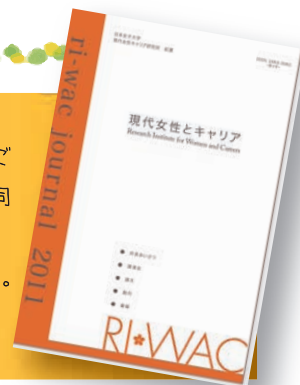
講師 金明中氏

2012年2月28日(火)、3月13日(火)、3月27日(火)の日程でニッセイ基礎研究所の金明中先生による「社会調査に役立つ統計分析：SPSSで学ぶ統計分析入門(前編)」を開催しました。来年度もワークショップの開催を予定しています。

紀要

2011年度紀要(第3号)ができあがりました。こちらの紀要は送料のみご負担いただくかたちでお分けしています。ご希望の方はお手数ですが、切手(1冊240円、2冊以上は当研究所まで問い合わせ)を貼った返信用封筒(B5サイズ)を同封のうえ、ご希望の冊数を明記し、当研究所へお申し込みください。

また、2012年度紀要(第4号)より投稿論文も受けつけることになりました(詳細は紀要第3号もしくは研究所HP参照)。ご投稿をお待ちしています。



おねがい

当研究所では、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブ(<http://search.riwac.jp/>)を公開しています。女性とキャリアに関する社会調査資料をおもちの方は、ご協力をおねがいをいたします。

各プロジェクトを進めるにあたり、ご協力いただいたみなさまにお礼を申し上げます。

RI*WAC

日本女子大学 現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 【TEL】 03-5981-3380 【FAX】 03-5981-3381

【e-mail】 riwac@fc.jwu.ac.jp 【RIWACホームページ】 <http://www5.jwu.ac.jp/laboratory/riwac/>



<http://www5.jwu.ac.jp/laboratory/riwac/>

関する調査」速報

図 1-3 昨年の年収 n=4753(わからない / 答えたくないを除く)

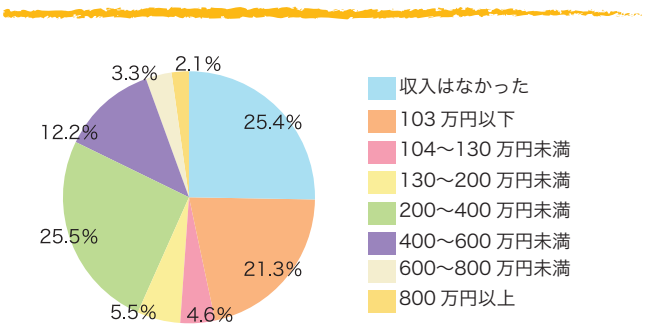


図 1-4 婚姻状況 N=5155

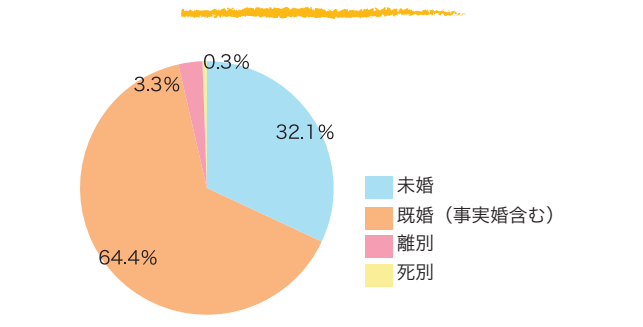
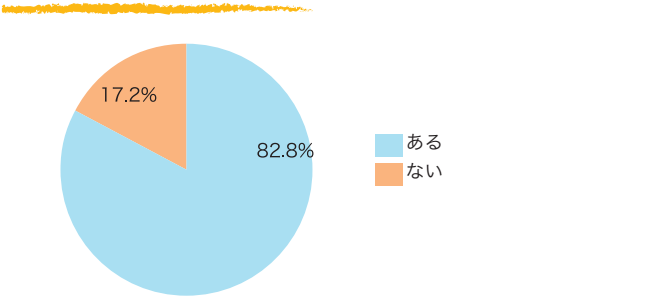
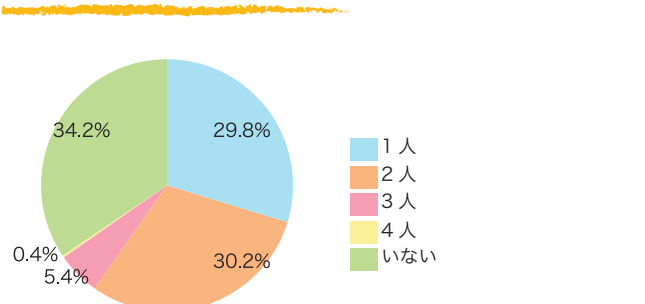


図 1-5 共働き経験 n=3318



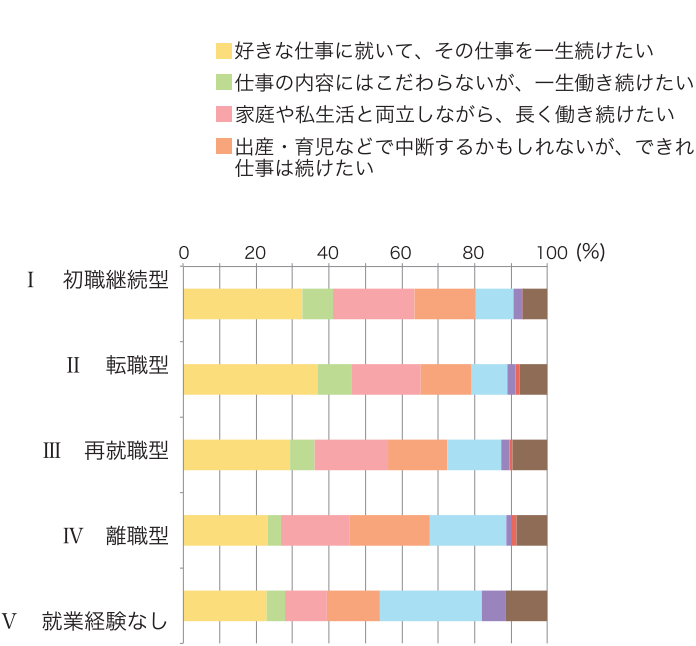
昨年度の本人年収は、約 4 分の 1 が「収入がなかった」と回答している。収入がある場合も、非課税である「103 万円以下」が約 2 割、社会保険料免除となる「130 万円未満」も含めると全体の半分以上を占めている。
対象者の婚姻状況は、「既婚（事実婚を含む）」が約 6 割、「未婚」が 3 割程度である。

図 1-6 子どもの数 n=3318



既婚者 (3318 人) のうち共働き経験が「ある」人が 83% と 8 割を超えている。既婚者の中で、子どもの「いない」人は 34% である。いる人は「1 人」が 30%、「2 人」が 30% となり、あわせて 6 割を占める。
なお未婚者のうち、子どもがいると回答した人は、0.5% である。

図 1-7 ライフコース別学卒時の就業意向 N=5155



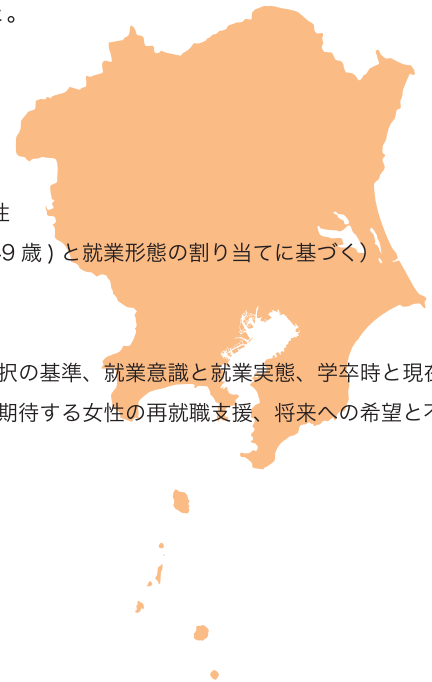
現在のライフコースと学卒時に理想とした働き方を比較すると、ライフコース I・II のように現在も何らかの形で仕事を継続している人ほど、学卒時点で、将来の仕事への意欲が強い傾向がみられ、IV・V のように現在仕事に就いてない人は、就業へのこだわりが少ない。
このように、学卒時の理想とする働き方の意向は現在のライフコースにも少なからず影響を与えている。

「女性とキャリアに

現代女性キャリア研究所(RIWAC)では、女性の能力活用と職業中断後の再就職支援のための大学による教育プログラム開発を目的に、首都圏に住む25～49歳の女性を対象とした調査を実施した。

■ 調査概要

- 調査目的 職業に対する意識とキャリアの軌跡を把握すること
- 調査方法 インターネット調査(調査会社マクロミル)
- 調査対象者 東京、埼玉、千葉、神奈川に住む25～49歳の短大・高専卒以上の女性
(2010年厚生労働省の「労働力調査」による年齢(25～29歳、30～39歳、40～49歳)と就業形態の割り当てに基づく)
- 実施期間 2011年11月25日(金)～27日(日)
- 回答人数 5155人
- 調査項目 現在までのライフプロセスの状況、就業継続可能理由、離職理由、職場選択の基準、就業意識と就業実態、学卒時と現在のライフデザイン、女性の就業に対する両親・配偶者パートナーの意識、転職・再就職意向、大学に期待する女性の再就職支援、将来への希望と不安など

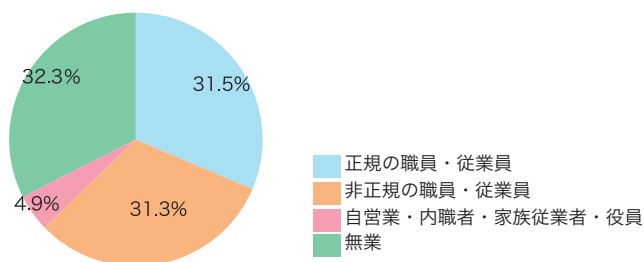


1 対象者の全体像

調査対象者のこれまでの働き方と生活状況について概要をみてみよう。

現在の働き方は？

図 1-1 就業形態 N=5155

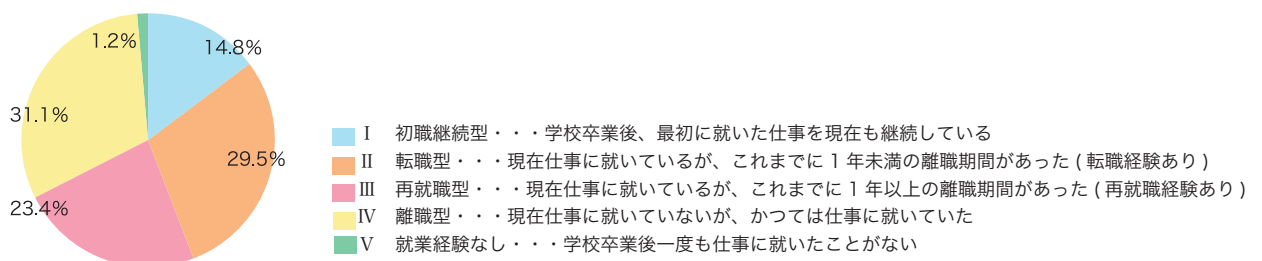


正規雇用、非正規雇用、無業がそれぞれ約3分の1を占めた。自営業・内職者・家族従業者・役員は5%となった。



対象者のこれまでの働き方は？

図 1-2 対象者のライフコース N=5155



ライフコースを5パターンに分類したところ、「I: 初職継続型」が15%、「II: 転職型」が30%、「III: 再就職型」が23%、「IV: 離職型」が31%、「V: 就業経験なし」が1%となった。対象者の約7割が就業している。

